

2025年度 祥明大學校交換留学 報告書

総合管理学部総合管理学科 3年 岩下詠

留学先:韓国・祥明大學校 天安キャンパス

期間:2025年3月~2025年12月



<目次>

1. 留学の動機・目的
2. 留学開始までの流れ
3. 学修面
4. 生活面(学校生活・私生活)
5. 経済面・奨学金
6. 留学を終えて

1. 留学の動機・目的

私は幼いころから海外で勉強したい、留学をしてみたいという夢がありました。その夢を叶えるために、オーストラリアへの海外研修制度がある高校へ進学しました。しかし、世界中で流行したコロナ感染症の影響で、高校に在学した3年間、その夢が叶うことはありませんでした。悔しい思いを半分、留学を諦めなければならないのかという気持ちを半分抱えたまま大学受験期を迎えました。私が所属する総合管理学部は、グローバル社会で活躍できる人材を育成することを目指しており、海外で学びたいという私自身の夢を叶える近道になるかもしれないと思い、熊本県立大学総合管理学部を受験しました。その後、大学生活を送りながら、日々、国内に留まるだけでは本当の意味で「グローバル」にはなれないと感じており、やはり実際に国外に出て一人で違う環境に行く経験を試してみることこそ真の成長をもたらすと思い、日本を離れて学びたいという思いが強くなるばかりでした。そんな時に校内にあるグローバルラウンジの掲示板で交換留学の掲示物を目にしました。その時に、やれるうちにやらないでどうする、という考えが頭をよぎり、交換留学に挑戦することを決意しました。

交換留学はアメリカか韓国のどちらかを選べるのですが、私は韓国を選択しました。私は以前から韓国の文化(K-POP やドラマ)に興味を持っており、好きなアイドルのコンテンツやドラマを字幕なしで見ることができるようになりたい、推しが話す言葉を理解したいと思うようになり、独学で韓国語の勉強を始めました。しかし、独学の限界を感じ、言語は現地で学ぶのが一番早いと思ったことが留学を選択した大きな理由の一つです。

私は「自分の視野を広げる」ことを留学の目標としました。語学力の向上はもちろん、韓国の習慣や歴史、政治などにも触れ、自分の視野を国外にまで広げることで自分の成長につながると考えました。

2. 留学開始までの流れ

- ① 応募
- ② 選考(書類と面接)
- ③ 決定(9月頃)
- ④ 留学書類、ビザなどの用意

留学開始までは上のような流れで進んでいきます。

特に、留学書類とビザの用意は時間がかかり大変でした。

韓国の交換留学は3月から開始されますが、応募から決定までは夏には完了します。交換留学を考えていらっしゃる方は、掲示板等を早めから確認しておくといと思います。

3. 学修面

私が受講した科目と概要は以下の通りです。

○前期

・ゲーミフィケーションの理解と適応

身の回りの課題をゲームを用いて解決に導くという大きな目的のもとで、ゲームの構成や効果などをグループワークを通して考えゲームを作成する。

筆記試験あり。

・日本語フリートーキング

日本人学生は韓国人学生のサポーターという役割で進行。SDGsをもとに、課題解決のための対策をグループワークを通して考え、韓国人学生は日本語で、日本人学生は韓国語で発表する。

筆記試験はないが、日本人学生はSDGsについて韓国語でレポートを作成し提出。

この授業は、韓国人学生と話す機会が多く、友達もたくさん作れるのでおすすめ。

・日本の感性と思想

日本の歴史や文化を通して日本人が大切にしてきた感性や思想を学ぶ。

1コマの内容の量が多く、留学したてで履修するには難易度が少し高め。

筆記試験あり。

・グローバル社会と地域文化

様々な国の文化や政治が学べる。

筆記試験はないが、授業内で扱った国を1つ選択しレポートを作成して提出。

○後期

・映画で日本を読む

様々な日本映画を見ながら、日本語や歴史的背景、日本の文化などを学ぶ。

日本映画が韓国人の視点からどう見えているのか新たな発見がありおもしろい。

筆記試験あり。

・国際社会と日本政治

日本政治を国際社会と比較しながら学ぶ。

他国から日本はどう見えているのかという日本国内で勉強するだけでは得られない、国外からの視点を得ることができる。

筆記試験あり。

・通翻訳日本語

日本の小説を韓国語に訳し、実際に翻訳本を作成する。

韓国語の単語力が一気に伸びる。

試験なし。

韓国の大学の授業スタイルはグループワークやディスカッション、発表の機会が非常に多く、ただ座って聞いてメモを取るだけでは成立しない授業スタイルです。日本人学生に意見を求められることも多く、常に準備していなければなりませんでした。

実際に韓国で大学に通って「学歴社会」を目の前で実感しました。テスト期間中は学校に寝泊まりして勉強したり、24時間空いている勉強カフェがあったり、学校の施設も24時間空いていたり、日本では経験しなかったことだらけで衝撃を受けました。

他国で学ぶということは想像以上に体力と精神が削られ、つらい思いもたくさんしました。特に言語の面で大きな障壁がありました。授業、授業資料、試験はすべて韓国語で行われました。「授業を聞きながら頭の中で日本語に翻訳して理解した後、メモをとる」という過程を行うことに毎回全力を尽くさなければならず、毎時間が戦いでした。韓国語の実力不足を毎日のように実感し、悔しさを何度も味わいました。授業の理解速度、課題を終えるのに要する時間、試験での解答速度などすべてが韓国の学生よりもはるかに劣ります。だからといって留学生を特別扱いしてくれるわけでもありません。留学生だからこそ現地の学生よりも2倍、3倍努力しなければいけないと感じ、自分自身との勝負の毎日でした。

私は授業のない時間にはひたすら韓国語の勉強をしていました。試験前は、予想問題を韓国語で作成し、韓国語で出題される問題を翻訳し、答えを考えたあと、それを韓国語で書き出すという行為を何度も繰り返し練習しました。前期の中間考査の時点では、問題の下に日本語を書いて、韓国語で解答する前に日本語で書いてから韓国語に書き直すということしかできませんでしたが、後期の試験では韓国語で考えて韓国語で答えるという感覚が次第に身に付き、ほんの小さな努力でも目に見える成果につながることを身に染みて感じました。

4. 生活面

○学校生活

留学中は学校が所有するアパートで生活しました。少し狭いですが、生活する分には困らない程度の広さです。ベッド、机、いす、キッチン、冷蔵庫、トイレ、シャワーは完備されていますが、その他のものはありません。Wi-Fiは有線のみ設置されていて、無線ルーターはありません。無線が必要な場合は購入しなければなりません。部屋で課題をしたりオンライン授業を受けたりする機会もあるので、無線ルーターを購入するか、デザリング可能なeSIMを利用することをおすすめします。調理道具、食器、電子レンジ、掃除用具など生活に必要なものを現地で購入しました。また、アパートには洗濯機も設置されていないため、毎回近くのコインランドリーで洗濯をしていました。学校の寮にある洗濯機も使えますが、遠かったためコインランドリーを利用しました。

学校行事にもたくさん参加しました。5月はMT(学科ごとに行われる、学科内での交流を深めるための1泊2日の合宿)に参加しました。ここで友達がたくさんできました。先輩方とも仲良くなり、仲良くなった先輩を通じて人脈がどんどん広がっていきました。



(↑MT 参加時の写真)

9月には学園祭がありました。メインはアイドルやアーティストの公演です。わたしは友達と最前に場所をとってフェスのように楽しみました。

12月には、留学生代表として10か月間の成果や苦勞したこと、努力したこと、将来のことなどについて10分間のスピーチを行いました。韓国語で資料と原稿を作成し、何度も練習を重ねました。発表後には、学部長や他学科の教授から感動した、留学お疲れ様と声をかけていただき、とても貴重な経験となりました。



また、放課後には友達とご飯を食べに行ったり、学校の近くにある公園を散歩したり、カフェで勉強したりして過ごしました。午前中で授業が終わる日はソウルまで遊びに行く日もありました。

○私生活

学校が休みの日には、一人でソウルや釜山や水原に旅行に行ったり、友達と遊園地に行ったりしました。夏休みも日本には帰らず韓国で過ごしました。韓国の友達と旅行したり、ソウルまで遊びに行ったりしました。ソウルまではバスで1時間、地下鉄で2時間ほどかかります。6000ウォン(約600円)でソウルまで行くことができます。

夏休みは寮を出なければいけないので(追加料金を支払うと寮で過ごすことも可能)、わたしは友達の家で過ごしました。

野球やサッカー、バレーボールのプロリーグの観戦をしたり、アイドルのコンサートに行ったり、これらの他にもたくさんの思い出を作りました。

また、韓国は公共交通機関や配達文化が発達しているため、とても便利でした。必要なものがあれば「クバン」というアプリで注文すれば次の日の朝には届いています。韓国の飲食店は夜遅くまで営業しているところがほとんどで、深夜にお腹がすいても、注文すれば家まで届けてくれます。自炊は時々しかせず、ほぼ毎日のようにペダル(韓国語で「配達」)に頼っていました。

留学中は勉強も大切ですが、現地の友達と思い出を作ることも大切だと思います。友達との交流を通して、現地の流行や流行語を学べたり、現地を案内してもらったりと、授業では学べないことまで学ぶことができます。

これから留学に行かれる学生の方々も、現地で人脈を広げて素敵な思い出を作ってほしいと思います。

5. 経済面・奨学金

お金のことについてはみなさん気になることだろうと思います。私も留学に行く前まで経済面が唯一の懸念点でした。

まず、当たり前のこととして、海外で生活し勉強することには多額の費用が必要になります。留学を見据えて事前に準備しておかなければなりません。

この交換留学プログラムでは、留学準備費と、毎月9万円の奨学金(給付型)を受け取ることができました。1か月9万円あれば十分に生活することができました。

留学にかかる費用は生活費だけでなく、交通費や渡航費や教材費、ビザの発行の際にも費用がかかります。留学全体でどれくらいのお金が必要か、事前に調べることをおすすめします。

韓国はカード社会なので現金はほぼ使いません。私は10か月間カードだけで生活しました。外国人登録証を受け取ると銀行で口座を作ることができます。韓国でのお金のやりとりは基本的にスマホ上で完結するので、韓国で口座を作るといいと思います(学校の寮費も韓国口座振り込み)。口座を作るとチェックカード(日本でいうデビットカード)が発行されます。わたしはこのチェックカードと日本から持って行ったクレジットカードを利用しました。ただ、クレジットカードは不正利用されやすいので、複数枚持っていくといいと思います。

また、奨学金は日本口座での受け取りとなるので、韓国口座に送金するにはWISEという送金アプリとWOWPASSというアプリを利用して、日本の口座から韓国で作った口座に送金していました。

私は長期休暇期間中も韓国に滞在していましたが、留学中はアルバイトが禁止されているので、夏休みに一時帰国してアルバイトをすることもいいと思います。

6. 留学を終えて

私は留学生活を通して、グローバル社会で活躍するには様々な価値観を同時に扱える思考力が重要だということを知りました。日本で「当たり前」とされる基準が、韓国では数多くの選択肢の一つに過ぎず、価値観は絶対的ではなく、環境によって変わるということを実感しました。

つまり、グローバル社会で求められる能力は、他の価値観を理解し、対立ではなく共存に繋げる能力だということです。また、言語は単なる技術ではなく、文化を理解する鍵であり、人と深くつながるための架け橋だということも学びました。

精神的にも体力的にもとてもつらい日々でしたが、その分成長もできました。

韓国語で授業を受けながら日本の社会、文化、政治、歴史などを学ぶ機会も多く、とても興味深い経験でした。「日本は他国からはこう見えているんだな」という気づきを得て、逆に私が日本に対してどれだけ「内側の視点」だけを持っていたのかも実感しました。自分の国を外側の視点から考えるきっかけを得たのは、留学していなければ絶対に得られなかった学びでした。

私にとって留学は「海外に行くこと」そのものではなく、「自分の視野と基準を広げる旅」でした。留学とは自分の基準を振り返り、新しい視点を獲得する過程だと思います。

最後に、これからの目標として、韓国で働くことを目指しています。しかし、進路を一か所に制限せ

ず、日本と韓国、そして世界で私の能力を発揮できる人材になることを目指します。そのために、言語能力だけでなく、文化の違いを理解し、協調性をさらに磨きます。留学を通して得た視点と経験を活かし、グローバル社会で必要とされる人材になりたいです。

留学で学んだことをたった一度の経験で終わらせず、これからの人生の中で向き合うことになる選択の岐路で留学での学びを活かして選択していくことこそ、私がこの留学で得たものへの返答になると信じ、次の夢を叶えるために努力していきます。